

Note :

2023.01.06 Oka

D&D5 版で冒険の舞台として、フォーゴットン・レルム世界のインピルターと周辺地域を遊ぶための資料です。手持ちの資料と海外有志の運営している wiki を参考しました。

[https://forgottenrealms.fandom.com/wiki/Main\\_Page](https://forgottenrealms.fandom.com/wiki/Main_Page)

この地域の設定は DR1385 年くらいまで(D&D3 版の頃に相当)は記述されています。しかし、それ以降、詳細な設定はありません。DR1385 までの設定を踏まえ、それ以降の時代は遊びやすいように(≒好きなように)、記述を補って記載しています。

通常の拠点とされている町や砦などを幾つか廃墟に変更しています。フェイルーンの地域設定では町の距離が近接している傾向があり、拠点間の移動が野営なしの半日移動で済んでしまいがちです。デーモンの活動と国政の悪化を理由に廃墟に変更しました。これにより低レベル帯での護衛依頼の冒険を行いやすくし、また探索先の遺跡に変換しています。

「ボルガの粉ひき所～カゲロウ坂～ガイドデール」は本来インピルター領ですが、この資料ではダマラに変更しています。ダマラの僭王フロストマントルがインピルター弱体化の際を付いた暴挙ということにしています。他国との駆け引き、地域紛争などの冒険材料にできないかという考えです。

インピルターに存在していた騎士団の類は戦力としては壊滅に近い状態と設定しました。トライアド系の騎士団なので、正常に機能していればデーモンの跳梁を許容しないだろうことが一点。そして、プレイヤーの操る冒険者が率先して解決するしかない状況を明示するためです。

また、ゲームを遊ぶのにある程度は具体的なデータのある拠点があったので、鉱山町ヴォルドリック・ダンのマップを描いてデータ化しました。具体的なデータのほとんどない町なので、設定は勝手に決めたものです。

ファイル一式のうち、テキスト資料は全般的に情報過多だと思います。ご使用になられる場合、必要に応じて「マップだけを使用」、「テキストの記述を必要なところ以外削除」などしてください。

以下に、公式設定のうち伝説として語られており事実か判定しがたいもの、一部の者にしか知られていない前提のシナリオフックの類を備忘録的に記述します。採用して面白いものかは不明なので、使い物になりそうな部分だけピックアップして使用してください。プレイヤーとしてのみ、この地域を遊ぶには、読まない方が良いかもしれません。

### 【ナーフェルの王冠(Crown of Narfell)】

ナーフェルの王冠は 2000 年以上前にさかのぼる秘宝であり、古インピルター王国の即位礼装の頭飾りだ。そして、それ以前は古代ナーフェル帝国で使用されていた。王冠がこれら地域の歴史と絡み合っていることは有名だが、それは本質的に凶暴なもので、奈落のデーモン・プリンスの遺物だ。

### 《ナルフェリの礼装》

王冠の正確な起源は人々には知られていないが、デーモン・プリンスのオルクスからサロスのネンティアク(古代ナー族の最高指導者)への暗い贈り物であると信じられている。-970 DR までに古代ナー族は大幅に勢力を拡大し、最終的にダンウッドとして知られることになる土地にダン・サロスの壮大な要塞を建設した。王国の多く者は王冠がネンティアクの成功とサロスの繁栄の源であると言った。

彼らが王冠を身に着けた後、ネンティアクは「ナーフェル帝国」の創設を宣言し、ナー族のすべての王国を征服し始めた。彼の戦争は東側はアシュナートの領域に至り、その首都シャンダウラーは完全に破壊された。-900 DR までに帝国領土は西はインピルターのアップランズから東はアシュナート草原に達し、北は巨人の背骨山脈から南のアンバー川まで及んだ。

その数年間、ナーフェルの王冠の力はかなり小さかった。着用者が死ぬと王冠は魂を抜き取り、その身を王冠の亡霊に変えた。何世紀にもわたって王冠がネンティアクから別のネンティアクに引き継がれるにつれて、その力は拡大した。-623 DR にムルホランドへの侵攻が失敗した後、ナーフェルの軍隊はローマンサー(現ラシュメン)の軍隊によって攻撃された。敗北と帝国の崩壊を避けるためにナーフェルの貴族たちはデーモンの助けを求め、王冠の囁きによってもたらされた魔法に触れた。

-150 DR までに、ナーフェルの王冠は 700 年以上にわたって吸収した支配者の魂とともに闇と力を増していた。それはナーフェルの宮廷をさらに腐敗させ、彼らを魔物と組むように導き、次のネンティアクを完全に支配した。王冠はネザリルの陥落を生き延び、建設されたばかりの“召喚士の城塞”に安置された。

(訳注：この後、ナーフェル帝国は縮小して滅び、インピルターではダーラヴェン王朝が成立)

その後、王冠はほぼ 800 年間インピルターに埋葬されたままだった。何人かのインピルター人が、大谷のロウリンズ森とレシアー森林の地下深部を探索していたとき、彼らはバロールのンドゥルとその配下の休眠デーモンの群れを刺激した。目覚めた魔物はすぐに召喚士の城塞へと進軍した。

デーモンの大群が王冠に到達する前に、サーシェルという名のパラディンの活動によって進撃は止められた。聖なる戦士は、ンドゥルより前にシタデルに入り、731DR に王冠を粉碎した。秘宝の破壊は士気を打ちのめしてデーモン軍の背後を砕くのに十分であり、インピルター守備隊が戦いで打ち負かすことを可能にした。

#### 《インピルターの礼装》

王冠の物理的な残骸はサーシェルによって掻き集められた。トライアドの代表者であるイルメイターとティア、トームの大祭司が王冠を再構築するために集まった。彼らの協力によりナーフェルの王冠は慈悲、真実、正義の象徴に作り直された。再鍛造された王冠は、サーシェルが 732 DR にインピルター王へと戴冠したときに初めて着用し(エレスリム王朝の成立)、それ以来は王国の礼装の一部として機能した。

このとき以降の“ナーフェルの王冠”の外見は荘厳で洗練された幅 2.5cm のミスラルのサークレット。4 つの基点があり、そのうち 3 つはトライアドの神々のシンボルで飾られ、4 つ目はインピルターの紋章で飾られている。着けた者はトライアドの神々に由来する聖なる力を振るうことができた。

(訳注：現在、この王冠が公に確保されているのか、失われているのか不明)

#### 《ンドゥルの影の王冠(Shadow Crown of Ndulu)》

王冠が破壊された後、その内部の死霊は闇と邪悪な魔法とともに逃げ出した。それらはンドゥルによって掻き集められ、“ンドゥルの影の王冠”と呼ばれるものに鍛造された。

#### 【インピルターと周辺に強く関わるデーモン・ロード】

“亡者のプリンス”“流血公”、オルクス：奈落 113 階層「死の腹」タナトスの支配者：牡羊の頭とコウモリの翼を持った肥満したデーモン・プリンス。神々を呪い、生者を憎み、死者を蔑み、世界全ての破滅を望む。奈落の三大巨頭の一柱。“ナーフェルの王冠”を作製してナー族に与えたこの地域の災厄の元凶。

“囁きの女王”“幼き老婆”、ソネリオン(Sonellion)：奈落 71 階層「スピラク」が本拠地：トリルではサキュバスの姿をとる。定命の者を墮落させ、支配して生命力を奪い取ることを好む。バロールを呼び出すことができ、ンドゥルを戦友とする。インピルターとダン・サロスに強い執着を持ち、隙をみては危害を加える。“魔物戦争”の際、“鱗の”アグロス王の妻として振る舞い、922DR エレスリム王朝の断絶、1095DR のホブゴブリンの進軍を引き起こし、その後も王族を滅ぼすための策動。

“秘密の階層の主”、エルタブ(Eltab)：奈落 248 階層「秘密の階層」の支配者：枝角の生えた犬頭、赤い骨の板でできた皮膚に覆われている。グラズドやオルクス、デモゴルゴンと陰悪なライバル関係にある。“召喚者の城塞”の地下魔法陣に束縛されて各地を襲撃したが、-148DR にローマンサー戦士によって解放された。後年、サーイのザスタムに使役されていたが、1373DR に逃れて“召喚者の城塞”に戻り、征服と復讐の計画を立てている。(何を司って

いるのか、何が得意なのか不明)

“不変の女王”:(下級デーモン・ロード、支配階層なし):別名“覚えざられしもの(She Whose Name is Unremembered)”, “闇に凍てつく女(She Who is Frozen in Darkness)”。直径 10m の闇の塊であり(サイズ可変)、魅惑的な声で語る。闇と冷気を操り、氷のデーモンを召喚、周辺で行われた瞬間移動に介入する。ナーフェル帝国の魔術師によって、ダン・サロスの遺跡に封じられていたが、1373DR に“腐敗男”の活動と戦いにおいて冒険者によって解放され、“腐敗男”の軍隊を減ぼした。彼女はダン・サロスの支配権をエスカルと争っている。

エスカル(Eschar): (下級デーモン・ロード、支配階層なし): 赤い鱗の巨大な鬼の姿をしており、角は怪しく光っている。彼はとびきりの暴力を備えている。併せて配下デーモンを指揮、瞬快移動を行い、炎を吐き、魔法を妨害する。ナーフェル帝国の魔術師によって、ダン・サロスの遺跡に縛られている。彼はダン・サロスの支配権を“不変の女王”と争っている(エスカルが劣勢らしい)。

(注: 上記のうち、オルクスとソネリオン、エルタブには競合関係にあるデーモン・プリンスが複数いる。結果としてこの地域には、どのデーモン・プリンスが関わってきてもおかしくない。)

### 《ソネリオンのインピルターへの介入》

上記のデーモンロードのうち、特にソネリオンはインピルターに執拗な介入を行っている。

-150DR 以前 古代ナーフェル帝国の魔術師に使役されて各地で活動。

726DR “魔物戦争”の際、“鱗の”アグロス王の妻として振る舞い、インピルターの女王を宣言。

786DR アーススパー山脈でンドゥルが起こしたデーモン軍へのインピルター軍の討伐を陰謀で妨害。インピルターはデーモン軍を奈落に送り返すものの、王子と王女が死亡。ソネリオンは一時拘束されるが脱走。

922DR ソネリオンはインピルターに亀甲虫疫病(?)を広め、エレスリム王家はアリーア王女を除いて死亡。王女が婚約者リーガルド・オーバースキア(コアミア王家; コアミア王家の祖先はインピルター出身)と結婚のため“ナディアの栄光号”に乗ってコアミアに向かう途中、ソネリオンは船を落星海に沈める。以降、この海域では幽霊船が現れるようになる。幽霊船はスマレの香りの霧と豎琴の奏でと共に現れ、女性の嘆きと共に消え消え去る。王家のいなくなったインピルターはこの後、弱体化していく。

922-932DR ソネリオンはインピルターの貴族間で不安をまき、王国を内戦に追い込む。ナーフェルの王冠を手に入れようとしたが、ライラバーの魔術師ソーガーによって阻止、彼はソネリオンをインピルターから追放する魔法を作成。ソネリオンはローリンズウッド地下深部に撤退し、体制の立て直し。

1095DR ソネリオンは巨人の背骨山脈のホブゴブリン部族から大軍を集め、インピルターへ進軍。ホブゴブリンの軍勢は、インピルターの都市国家の連合軍(+エルフ&ドワーフ) 戦闘。激戦の末、連合軍が勝利。のちに連合軍の指揮官がインフラス一世として戴冠。

1122 DR ホブゴブリン軍を操ってインピルターを襲撃、(インピルター軍は 1110DR にセスクとサーイの戦争への援軍で消耗状態のため)インフラス一世は近衛兵だけで北に迎撃。ソネリオンはインフラス一世を捕らえ、拷問で意思をくじき、デスナイトに変えて、自身の配偶者とした。

1126 DR ホブゴブリン軍の襲撃に対し、ソネリオン王朝 2 代目のインブラー一世が出撃。王とその部隊は行動中に行方不明。王女イルマラが摂政女王として王位を引き継ぐ。誰も知らないが、インブラー一世はソネリオンに捕獲され、デスナイト化された。彼が携えていた聖剣(“嘆きの剣”エレンドリンという話と、“デーモン殺し”ドルナヴァーという話がある)は失われる。聖剣は後年いったん発見されるものの、また消え失せてしまった(適切な持ち主の元に流転したか、何者かが回収したか)。

(1122-1126DR の事件は記載がバラバラで矛盾が多く確証なし、どちらか片方しかなく、途中ではなしが変わってしまったのかもしれないし、両方が起こったのかもしれない)

1127DR 以降 これ以降も様々な陰謀でインピルターを苦しめている模様。(後年のインピルターでの事件は裏でソネリオンが引き起こしていた可能性がある)